

1-12

認知症の周辺症状

デイサービス

それは本当に「暴力行為」なのか？

認知症のある利用者へのケアをめぐる意見の相違に直面して

通所介護施設 有隣ケアセンター

発表者：相談員 俵木 伸子	共同研究者：村上 由佳
所在地：東京都世田谷区船橋 2 丁目 15-38	共同研究者：萩原 明日香
TEL：03-3482-3003	E-mail：yurin_care@lime.ocn.ne.jp
FAX：03-3483-3938	URL：http://www.yu-rin.jp/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	世田谷区にある社会福祉法人東京有隣会の通所介護施設。法人の母体となる有隣病院の他、併設施設として、二つの介護老人福祉施設および地域包括支援センターがある。法人の長い歴史のもと、地域の社会資源の中核としての役割を担っている。
----------------------------	---

〈取り組んだ課題〉

介護者に対して殴る叩くつねるなどの行為がみられる認知症のある利用者に対して、事業所内で「暴力行為」という見方と「認知症の周辺症状」という見方に分かれた。認知症のある利用者、特に重度の周辺症状を伴う利用者が増加する中で、他事業所でも抱えている問題ではないかと思い、「暴力行為」というより「認知症の周辺症状」であり、ケアの方法により軽減の可能性があるのではないかという見方の検証を課題として取り組んだ。

〈具体的な取り組み〉

- 対象利用者へのケアの見直し
 - 水分量の強化
540cc から 1500cc へ
 - ストレングスへの着目
「ご本人からの言葉」「算盤」「排泄」
 - 不安を取り除く関わりの試行錯誤
- 職員間の意識統一に向けての取り組み
 - アンケートの実施
 - 個別ケア方法の統一についての検討会の実施
 - 個別記録（当番制）の作成
- インフォーマルなサポートの形成
 - 他利用者
 - ボランティア

なお、倫理的配慮に関しては、調査の目的とプライバシーの遵守を依頼時に誓約し、文書にて了承を得ている。

〈活動の成果と評価〉

- 介護者に対して殴る叩くつねるなどの行為は減少した。「おい」と大声で呼ぶことは時折あるが、適切な対応を行えば納得される。
- 利用日数も増え、ご家族の介護負担も軽減された。
- 職員間の意識のばらつきが多少縮小した。
- 担当ケアマネジャーや地域包括支援センターとも協働して取り組んだ
- 「暴力行為」としてしまうとそこで終わってしまう。認知症の周辺症状ととらえ、ケアの工夫を行うことで、自分たちの仕事の本来の役割・使命を振り返ることができた。

〈今後の課題〉

- ご自宅で過ごされる時間も含めて 24 時間の生活サイクルの確立
- 認知症の周辺症状への理解を深めることと、様々な周辺症状への実践的な対処方法の検討
- 職員間の意識の統一とケアの標準化

〈参考資料など〉

「認知症ケアの考え方と技術」六角僚子 医学書院

【メモ欄】